

国語科学習指導案

単元名：

「漢字の読み方」

(全2時間扱い中 第2時)

授業日時 2021年11月11日(木)第2校時

授業学級 2年東組

授業会場 2年東組教室

授業者

指導者

(1) 主眼(授業の手立て&ねらい)

(〇〇の子ども達が) 〇〇の場面で、〇〇を通して、〇〇を□□することができる／できるようになる。

1つの漢字にいろいろな読み方があることを発見した子どもたちが、「上」という漢字の読み方をできるだけたくさん使って文章を作る場面で、漢字練習帳や教科書から言葉を集めてつなげることを通して、漢字の異なる読み方を意識して、文章を作ることができる。

(2) 展開

	学習活動	予想される子どもの反応	「授業者の主な発問」・※留意点・【教材】	時間
--	------	-------------	----------------------	----

導入	1. 前時を振り返る	「たくさんあったよね」 「一番多い読み方があるのは【生】だね」 「【上】と【下】は同じくらいあった」	「前回の授業で範子先生と、同じ漢字でも読み方が違う漢字を探したけどどんな漢字があったか覚えてる？」 ※出てきた漢字を板書	2
	2. 学習問題を把握する	「下という漢字がめっちゃ使われている。」 「7個ある。」 「すごい！」 「僕も作ってみたい。」	「みんなが探してくれた漢字の中で先生は、「下」という文字をたくさん使って文章を作ってみました。みんなで読んでみましょう。」 文：ピーターとクララと階段を下るとちょっと高い崖があった。飛び下りると崖の下には下田さんがいた。下校時間になったので廊下を歩いて外に出ると気温が下がって寒くなっていた。 「じゃあ先生は下という漢字を使って文章を作ったのでみんなは上という文字を使って文章を作ってみましょう。」	3
	【学習問題】「上」という漢字の読み方をできるだけたくさん使って文章を作ろう。			
	3. 文章の作り方を考える	「うえ」 「かみ」 「じょう」 「うわ」 「あ・げる」 「上ばき」 「上着」 「あげる」 「あがる」 「上ばきで階段を上がる」 「教科書」 「リラックマ」 「友達」 「辞書」	「ノートを開いてく上という漢字の読み方を出来るだけたくさん使って文を作ろう」と書いてください。 「【上】って漢字ってどんな読み方があったっけ？」 ※子どもが【上】の付く言葉をイメージできるようにいくつか考えるよう促す 「【うわ】【あ】が付く言葉ってなにがあるかな？」 「これをつなげて文章作れるかな？」 ※子どもが文章を作るイメージを持てるように【上】を使って簡単な文章をみんなで考える 「面白い文章も作れそうだね。今、言葉を見つけてくれたけどどうすればほかの読み方の言葉が見つかるかな？」	8

	【学習課題】漢字練習帳（リラックマ）や教科書から【上】の付く言葉を集めてつなげよう。			
展開	4. 文章を考える	「わからないよ。」 「これ以上長くならない。」 「全然思いつかない。」 「もうこんなに漢字使えた。」 「えー、もう終わり？」 「もっと長くできるよ。」 手を挙げる 「すご！」 「どんなの作ったんだよー！」 「僕もっと使えたよ。」 「私あんまり使えなかった。」	「では、それぞれノートに文章を書いていってみましょう。時間は15分です。できるだけ長い文章を考えてみましょう。」 「最初の5分は自分で考えてみましょう。」 ※机間指導、困っている子がいたら個別で指導 ※文章を書くヒントとなるような書き方をしている子がいたら、ICTを活用しクラスで共有 「残り5分です」 「では時間になりました。」 「はい、じゃあみんなが漢字を何個使って文章を作れたか聞いてみたいと思います。」 「1個。」「2個。」「3個。」 ※挙手	15
	5. 作った文章を友達と共有する	「はいはいはい！！」 「発表したい。」 「先生当てて。」	「じゃあ、自分の作った文章を発表してくれる人！！」 「じゃあ、〇〇君。」 ※ICTを活用しプリントを写し発表する ※時間が許す限り発表する	12

終末	6. まとめ	「楽しかった！！」 「もっとやりたかった。」 「ありがとうございました。」	「今日みんな文章を作って発表してみようだったかな？」 「じゃあ、ノートに今日の感想を書いてみてください。また授業以外でも新しく文章を作れたらぜひ先生に見せてください！」 「ノートを後ろから回収してきてください。」 「これで授業を終わります。当番さん挨拶をお願いします。」	5
			【本時の評価（評価する対象）】 （ノート）	